



### 山行報告

#### ★筑波山清掃登山(12月4日)

参加者 会員(障害者4名、健常者12名)  
会員外(健常者5名)

今日は筑波山での清掃登山。直前で参加できなくなったり、逆に当日飛び入り参加などがあり、最終的には21人の参加となった。数十年ぶりに会えた方もいる。茨城県に住む正会員や賛助員の方が応援に駆けつけてくれた。とてもありがたいことです。初参加の方もいて、とても新鮮な山行となった。

天気はますます。つくばエクスプレスの車窓から筑波山が見えてくる。つくば駅で電車を降り、バスで筑波山神社入口まで行く。乗客は多かったが増発は出ない。私も運転手さんに協力して、「まだ前の方は空いていますよ」と伝え、何とか全員、バスに乗車できた。私はバスの先頭で風景を楽しみながら筑波山神社に向かう。



バスの中から見た筑波山

筑波山神社入口のバス停で、車で来た茨城の

みなさんや八街のIさんに会う。全員そろって階段を上がり、神社本殿の前で自己紹介を行う。今回は強力なメンバーだが、サポート経験がない方もいるので、途中で経験していただくこととする。



筑波山神社の紅葉

今日は清掃登山だが、茨城県山岳連盟の人たちもゴミ拾いをするらしい。途中、女体山山頂近くで行き交うことになった。

筑波山神社周辺は、紅葉が美しい。真っ赤に色づいたカエデなど、いろいろ楽しませてもらう。神社からはケーブルの線路に沿う形で登っていく。登りと下りのケーブルカーが行き交う中間地点で少し待っていたら、ケーブルカーが登ってきた。登りが緑色のわかば号、下りが赤いもみじ号。写真を撮って出発する。

ここから登りが急になる。初参加の2人も順調に登っている。水戸葵山岳会のKさんにAさんのサポートをしていただく。山道の歩き方がしっかりしているので、サポートもスムーズにできている。登山道が木の階段になったところで、登山が初めてのTさんにもサポート経験をしていただく。自分のことで精一杯だと言って

いたが、しっかりサポートしていた。将来に期待が持てそうだ。

樹木の切れ目が見えてくると御幸ヶ原に到着する。これまで見えなかった日光の男体山や白根山、那須の山々、そして近くの加波山などがよく見えている。ここで昼食タイムとする。地面にシートを敷いて、思い思いに食べる。TさんやSさんからリンゴやコーヒーをごちそうになる。



昼食後は、男体山を往復する。岩の多い道が続くが、全盲のAさんも問題なく登っていく。男体山に着くと、皇海山や上州武尊などの山が見える。そして、誰かが富士山も見つけた。淡い霞の向こうに富士山がうっすら見えていた。手前には関東平野が広がる。霞ヶ浦は霞がかかってははっきり見えなかった。



男体山の山頂で写真を撮った後は、御幸ヶ原に戻り、女体山に向かう。途中にあったガマ岩の口に小石を投げ入れようとするが、すぐに落ちてくる。なかなか難しく誰も成功しなかった。

女体山の山頂に到着するが、大混雑でゆっく

りできなかった。富士山はもう見えなくなってしまった。山頂標識の前で集合写真を撮って早々に下山を開始する。



これまでゴミは少なかったが、ここの下山路横の斜面には、大量のゴミが捨てられている。ここはあまりにも多すぎて、今回は捨つけないこととする。このゴミを捨てるには、ここのために特別部隊を編成してこなければ難しかった。



つつじヶ丘へのコースは、おもしろい岩がたくさんある。大仏さんのように見える大仏岩、天に突き出るような北斗岩、船の頭とおしりの用に見える出船入船、大きな岩の下をくぐる母の胎内くぐり、そして一番おもしろいのが今にも大きな岩が落ちてきそうで、強い弁慶もそこを通ろうかどうしようか迷ったと言われる弁慶七戻りなどがある。そんな岩を楽しみながら、下っていく。筑波山神社に泊めた車に直接向かうお二人と別れ、つつじヶ丘に下る。もうかなり陽が落ちてきた頃、つつじヶ丘に到着する。無料の大滑り台を滑ろうとするが、全然滑らな



いので、駆け下りてきた。

つつじヶ丘発つくば駅行き最終バスに乗って帰途につく。ただ、休日は19時発の最終バスもあるらしい。

みなさん、お疲れ様でした。 記：網干

## ★権現山(12月10日)

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)

賑やかだった先週の筑波山とは打って変わって、今回は6人という少人数。しかし、雲一つない快晴に恵まれた。新松田駅からも真っ白な富士山が見えていた。

バスの乗客の多くは玄倉で降りた。ここで降りた人は檜洞丸方面やユースンロッジ方面に行くのだろうか？ 私たちは、浅瀬入口で降りる。軽く準備運動をして登り始める。まだ美しく紅葉した木があるが、いきなり階段の急登となる。今回の登山道は、昭文社の地図では破線になっていて、道が不明瞭なため、初心者は通行不可になっている。どんな道なのか興味深い。



急坂を登ると、標高550mの小ピークに出る。玄倉付近では雲一つなく真っ白だった富士山には、すでに雲がかかっている。ここからさらに急坂になる。落ち葉が多く、登山道もはっきりしていない。ただ、道標はしっかりしている。急坂はしっかり踏まれていないので、滑りやすい。傾斜が落ちたところで、ハンターに遭

## コースタイム

筑波山神社(10:20)…御幸ヶ原(12:20-13:00)…男体山(13:20-13:30)…御幸ヶ原(13:40-13:45)…女体山(14:10-14:20)…弁慶七もどり(15:15-15:25)…つつじヶ丘(16:05)

遇。鹿の間引きをしているらしい。今日は20人のハンターが来ているとのこと。

標識はあるものの、はっきりした登山道ではないため、確かに初心者にはルートファインディングが難しいかと思う。ただ、登りは尾根を外さなければ大丈夫。木に掴まったり足場を固めたりしながらぐいぐい登っていく。振り返ると箱根方面の山々や大野山、不老山が見える。さらに登ると愛鷹山も見えてきた。



山頂直下にはさらに長い急坂がある。滑り落ちないように慎重に、しかしぐいぐい登っていく。傾斜が落ち、さらに少し行ったところに山頂標識があった。北西側が少しだけ樹林が切れ、展望がある。雲が山頂の半分を隠した富士山と遠くに白い雪をかぶった南アルプスの峰が見える。山名の同定まではできなかった。近くには、菰釣山などが見えていた。

山頂で昼食を食べ、下りにかかる。ここまで計画した時間通りに来ている。「さすがリーダーだ」と上げたり下げたり、今日の登山道もアップダウンが多い。登り続けるよりおもしろいでしょう。

昭文社の地図では下りは実線になっているが、この道も少し不明瞭だ。ただ、丸太で階段を作っているのが、登りのコースより人の手が入っているようだ。しかし、急坂なので慎重に下る。途中で地崩れして展望の良いところがあった。檜洞丸や蛭ヶ岳など丹沢の主脈が見えている。塔ノ岳方面もわずかに見えていた。



権現山山頂にて

もう登りはないと思ったら、二本杉峠の前にもう一登りある。「リーダーは嘘を言ったな」と今度は下げられる。地図をよく見れば確かに二本杉の手前に小ピークがある。問題なくそこを越えて、二本杉峠から細川橋に下る。最初はトラバースが続き、なかなか標高は下がらない。しかも、このトラバース道は、ところどころ足場の狭いところがあり、慎重に下る。

## ★多峰主山忘年山行(12月18日)

参加者 会員(障害者6名、健常者17名)  
会員外(健常者1名)

今年最後となる忘年山行は、奥武蔵の入口にある多峰主山だ。これまでに何度か登ったことがあるが、展望がよく、都心から近くて、体力的にも楽な山なので、忘年会前の登山としてとても適した山として計画した。しかし、今回計

壇堤の工事をしている重機が見えてくる。重機用の道もできているが、そちらに行く道はないので、登山道を下る。林道に出て、しばらく歩くと細川橋のバス停に到着。バスの時間まで50分ほどある。中川温泉まで歩こうかという話も出たが、それはやめて、バス停でストレッチや筋トレ、ダンスの練習などをして寒さをしのいで、バスを待つ。一人も乗客のいないバスが着き、中に入り込む。非常に暖かいバスに揺られて、いつしかまどろみの世界に入っていた。  
記：網干



下りも急坂が続く

## コースタイム

浅瀬入口(9:30)…標高550m(10:00-10:10)…権現山(11:40-12:10)…二本杉峠(13:00-13:10)…細川橋(14:00)

画した飯能駅から登り、久須美坂に行くコースは多峰主山から先のアップダウンが多く、かなりきつかった。車道に出て、少し行ったところで、登山を中止し、車道に降りてバス停に向かうことになった。

12月にしては気温も高く、素晴らしい好天に恵まれた。飯能駅に全員集合し、まずは能仁寺を目指して車道を歩く。忘年会の会場を探そうとしたら、駅からすぐのところにあった。これなら安心だ。

車道を歩いて能仁寺に到着。ここから登り始める。いったん下ってさらに登る。途中、トイレのある広場で小休止。子どもたちは、落ち葉



を集めて投げかけてくる。こちらも負けじと投げかける。



天覧山から見た川苔山方面

ここから少し登ると十六羅漢がある。その先には岩場がある。クライミングをしているらしいおじさんがいた。高さ5mほどの垂壁にはチヨークの跡が付いている。

そのすぐ上が天覧山の山頂だ。展望台となっていて、富士山から奥多摩の大岳山、御前山、川苔山などが見え、丹沢山塊と大山も見える。都心のビル群方面にはスカイツリーもうっすら見えている。まずは、ここで集合写真を撮る。



天覧山山頂にて

天覧山からは階段を下り、湿原のようなところに出る。子どもたちは、落ち葉を投げつけて喜んでいる。私は子どもたちの遊ばれ役だ。休憩中、Kさんのザックの上には落ち葉が積み上げられている。

多峰主山への登りにかかると、鎖場が出てくる。鎖を使うほどではないが、なかなかの急坂をがんばって登ると多峰主山の山頂だ。テーブルは空いていなかったが、座っている人に脇を少し使わせていただくことで了解を得る。うど

んとした作りが始まる。うどんもするこもとてもおいしくできる。私は、昨年ある人から作っていただいた月光仮面の帽子を持ってきて、子どもたちを喜ばせようと思ったが、子どもたちは無反応。まあ、あまりにも古いヒーローなので、これも仕方ない。



多峰主山でうどんと作るこ作り

うどんとすることで満腹となり、集合写真を撮って、さらに縦走する。これまで多峰主山で行った忘年山行は、多峰主山で昼食後に飯能に下ったため、忘年山行までの時間をもてあましていたので、今回は逆コースにした。



とてもおいしくいただきました！

しかし、ここからのコースは、最初の道が分かりづらく、いろいろ探し、さらに多峰主山を目指してきた人に確認して見つけ出した。ここからのコースは、とてもアップダウンが多い。子どもたちは、私に落ち葉を投げかけるのをとても楽しんでいる。笑顔が絶えなく、とても楽しそうだ。しかし、続くアップダウンに疲れてきた様子。それでもようやく車道に到着。ここから高麗駅側に少し歩いて、また山道に入っていく。すぐ隣に住宅街が見えている。そんな時、

後ろの方から、疲れている人がいるので、これ以上先に行くのは難しいと連絡が来る。それではと、ここからすぐ下にある車道に降りる。



多峰主山山頂にて

車道を歩いて高麗駅まで行くこともできるが、まずはバス停を探すことにする。KRさんが地元の人にバス停の場所を聞いてくれる。バスは飯能駅行きだった。バスに乗る人と歩いて

## ★玄岳(1月7日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)

2017年最初の「障害者と健常者が共に楽しむ登山」は、熱海にある玄岳。すばらしい快晴に恵まれ、東海道線の車窓からも、真っ白な富士山や光る海がよく見えた。



世原の玄岳山頂直下を登る

熱海駅で全員集合し、バスに乗って玄岳ハイクコース入口まで行く。ここで自己紹介。今回は、中学3年生のS君が、初参加。インターネットで山の会を探していたところ、facebook

飯能駅まで行く人で別れ、歩くメンバーは4kmほど車道を歩いて飯能駅に到着する。

飯能に着いたら、恒例の忘年会。会場は30分前だが開始しても大丈夫とのこと。とてもありがたい。場所は少し狭かったが、いつものように盛り上がり、今年1年を振り返ることができた。

今年もみなさまのご協力に感謝申し上げます。来年も、がんばって運営していきますので、よろしくお願いいたします。 記：網干

## コースタイム

飯能駅(10:00)…天覧山(11:00-11:15)…多峰主山(11:55-13:10)…舗装道路(14:20-14:30)…飯能駅(16:20)

で「子ども山登り教室」などを行っている当法人を探して参加申し込みしたとのこと。親の勧めではなく、自分の意思で参加を決めたことに、自立心の強さを感じる。



富士山の展望台、玄岳山頂にて

バス停から、登山口への舗装道路は、非常に急斜面。正月でなまった体には少々応える。それでも元気に登っていく。車道から登山道に入ると、左手に竹林を見る。黄緑の葉が美しい。

樹林帯の道をぐんぐん上っていく。熱海新道の上にある歩道橋を渡る。そして山腹をトラバースしていくと、熱海の街や相模湾、真鶴半島、初島などがよく見えるところに出る。



そこから少し登ると、氷ヶ池への分岐点。まずは山頂を目指す。樹林が切れると山頂が現れた。笹原となり、富士山が間近に見えるようになる。左手には南アルプスの荒川三山、赤石岳、聖岳が見えている。手前には愛鷹山が見える。すばらしい展望だ。そんな風景の中に、パラグライダーが舞っている。寒そうだが、気持ちよさそう。少し遠くではハンググライダーも舞っている。



パラグライダーが舞う

山頂に立つと、さらにすばらしい風景が広がる。富士山はもとより、岩戸山から十国峠を経て、箱根の駒ヶ岳や神山が見える。反対側に目を移すと、駿河湾が見え、沼津アルプスや西伊豆方面が見える。笹の上には天城山も見えていた。昼食は、風をさけて笹藪の近くで食べる。

山頂を後に、笹原の広い斜面を下る。正面に富士山を見ながら下る道は気持ちよい。しかし、途中から傾斜が増し滑りやすくなる。笹の上はいっそう滑りやすい。私は気を抜いたときに滑って、右手のひらを切ってしまった。Oさんがすぐにカットバンを出してくださる。

熱海新道を渡り、さらに下っていくと、氷ヶ池の畔に出る。池の向こうには富士山が見えている。富士山と池を一緒に写せるところは少ないのではないだろうか？ 上空にはハンググライダーも舞っていた。

ここからもう一度、熱海新道に出るが、この先の道が分かりにくかった。車道を少し歩き、道路の下をくぐる道に行く。上から下りてきた人は、「ここから氷ヶ池に行かれますか？」と

聞く。この道で正しかったようだ。しかし、ここからの登りはかなり厳しかった。みなさん、下山途中にこんな登りがあるとは知らず、ぶーぶー言っている。でも、中3のS君は何でもない様子。今回の登山も楽しかったという。たのもしい。



氷ヶ池の畔にて

山頂への分岐に到着し、ここから午前中に登ってきた道を下っていく。下りは順調。分岐からちょうど1時間でバス停に到着する。最後の舗装道路は、S君がAさんのサポートを担当する。大人の会話は、介護だ認知症だと、あまり夢がない。S君のためにももっと夢のある話をしましょう！

富士山の大展望を満喫し、バスに乗って帰途につく。今年も1年、よろしくお願ひします。

記：網干



氷ヶ池と富士山

### コースタイム

玄岳ハイコース入口(10:35) … 玄岳(12:20-13:00) … 氷ヶ池(13:35-13:40) … 分岐(14:10-14:15) … 玄岳ハイコース入口(15:15)

## ★浜石岳(1月15日)

参加者 会員(障害者1名、健常者3名)

週末が近づくとつれ、気温が低下し、太平洋側の地域でも大雪になるところがでてきた。山行当日は、非常に寒い朝となる。片道3時間の電車の旅を楽しみながら、東海道線の由比駅で下車する。

由比駅で着込んできたダウンジャケットなどを脱ぎ、薄着になって歩きはじめる。まずは、車道歩きとなる。東海道線沿いに沼津方面に歩き、「浜石岳」の看板を確認して、車道を左に折れる。



浜石岳山頂から駿河湾を見下ろす

それほど急ではないが、長い登り坂の舗装道路を上っていく。振り返ると、駿河湾の向こうに伊豆半島も見えてきた。メジロが群れで木々の間を飛び交っている。ジョウビタキやルリビタキ、ヒヨドリ、ホオジロも見つけれられた。大切なミカンには袋がかぶせてある。



浜石岳山頂にて

今回は、ほとんどの道が舗装されている。車も時々上がってくる。見晴らしの良いところで休憩し、さらに舗装道路を上っていく。駐車場となっている広場を過ぎ、少し行ったところで、ようやく山道を歩くことになる。そして、山頂に到着。



山頂から見た駿河湾と伊豆半島

山頂は素晴らしい展望だ。残念ながら富士山や南アルプス方面は雲に隠れていたが、駿河湾や伊豆半島がすばらしく、箱根の山々や愛鷹山、沼津アルプスなどがよく見える。西寄りに目を移すと三保の松原方面がよく見え、遠くに御前崎も見えている。草原となっている山頂は、少し風があるが、日差しを受けていると比較的暖かい。



キツネが現れる

計画より長い時間休憩し、下山にかかる。予定では、薩埵峠に下るつもりだったが、分岐点を間違えたようで、浜石野外センターに出てしまった。ここから道標に沿って下ると、駐車場の上に出る。



ここからは来た道を下ることにする。駐車場の外れに来たとき、何か動物を発見。なんと、キツネだった。キタキツネは山で出会ったことがあるが、本州のキツネは初めて。夢中でシャッターを切る。たぶん、誰かが食べ物を与えたために、人の傍に寄ってくるようになったのだろう。

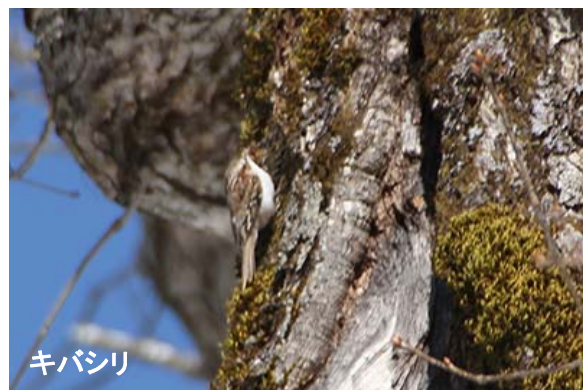
登ってきた車道をぐんぐん下って、駅の近くまで下りてくる。由比漁港では新鮮な桜エビが食べられるとのこと。少し寄り道を試みる。まだおなかが空いていないので、私は食べなか

### ★戦場ヶ原スノーハイク(1月22日)

参加者 会員(健常者 10名)

以前、恒例だった冬の湯の丸高原スノーハイクがなくなってから、しばらくスノーハイクをしていなかったため、今回は久しぶりのスノーハイクとなる。1月上旬頃は全く雪がなくて、どうなるか心配だったが、15日頃からのどか雪で、奥日光戦場ヶ原も十分な積雪量となった。

三本杉でバスを降りる。一足早く着いたKSさんが、みんなが早く出発できるようにとスノーシューとストックをレンタルしておいてくれる。Yさんはクロスカントリースキーをレンタルした。



キバシリ

今日はすばらしい天気にも恵まれた。前日は、霧に包まれて何も見えなかったようなので、と

ったが、桜エビ入りの味噌汁をサービスしていただいた。港にはたくさんの船が並んでいる。ユリカモメが鳴き、イソヒヨドリは雌も姿を現してくれた。

駅まで戻り、また3時間の電車の旅を楽しみながら帰路についた。 記：網干

### コースタイム

由比駅(9:55)…浜石岳(12:10-12:55)…由比漁港(14:40-15:00)…由比駅(15:20)

ても運が良い。きっと運が向いてきた晴れ男がいるに違いない。

まずは、車道を歩いて赤沼に向かう。ここから雪道に入る。しっかりとレースが付き、踏み固められていて、つぼ足でも全く問題なかった。それでも、せっかくスノーシューを付けたので、新雪の上も歩いてみる。樹木を下から上に登る鳥がいる。それは10数年ぶりに会うことのできたキバシリだった。



戦場ヶ原展望台にて

湯川にかかる橋は5段ほどの階段があり、クロカンのYさんはスキーを外して渡る。初めてのクロカンで手こずっている様子。その後も、少し遅れ気味だった。下りの箇所でもスキーを外すことにする。

小田代歩道を歩き、途中の展望台で昼食タイムとする。太郎山が正面に見える場所だ。集合写真もここで撮ることにする。初めてのクロカ

ンで苦勞していたYさんが、私のワカンと代えてくれるという。クロカン経験のない私は大歓迎だった。クロカン用の靴に履き替え、スキーに固定する。さー、「クロカンを楽しむぞ」という気持ちで出発する。Iさんに写真撮影もお願いします。



戦場ヶ原と太郎山、大真名子方面

ノルディックの選手がぐいぐい滑るようにがんばって進む。順調だ。途中から小田代が原を見に行く。あまり時間に余裕がなさそうなので、1周するのはやめることにする。

クロカンで斜面を登り、新雪のところ歩く。帰りは初滑り。順調に滑り降りたと思ったところで、最初の転倒をしてしまう。Iさんに起こしていただく。慣れれば大丈夫だと思ったクロカンは甘かった。それから10回以上転倒してしまった。滑りは順調だが、何でもないところで、勝手にスキーが滑り、バランスを崩して転倒することを繰り返す。歩くスキーなので簡単そうに思っていたが、簡単ではなかった。Yさんのおかげで貴重な経験をさせていただいた。IさんとSKさんには何度も起き上がらせていただいた。感謝です。

小田代が原を背にまっすぐ光徳入口に行こうと思っていたが、急角度でコースが曲がっているところで、間違って戦場ヶ原を縦断して赤沼に戻るコースに入ってしまった。気がつくの

## ★雨引山(2月5日)

参加者 会員(障害者2名、健常者6名)

が遅く、そのまま行くことにする。

戦場ヶ原縦断コースは、さすがに展望が素晴らしい。男体山を前に見ながら進むことができる。赤沼分岐に到着し、予定より遅れて赤沼に到着。ここでスノーシューを持参した人たちはバスを待つことになる。レンタル組は、三本松まで車道を歩く。



男体山を見ながら戦場ヶ原を縦断する

レンタル品を返すと、すぐにバスが来るから乗ろうということになる。ばたばたして急いだためにスノーシューを忘れてしまい、バスに待ってもらっている間に取りに戻る。

日光駅に着くと、またすぐに電車が来るという。ここでもばたばたして電車を待たせてしまう。さらに、バスから早く降りることのできなかったYさんが乗り遅れていることに電車が発車してから気づく。Yさんは、一人で次の電車で帰ることになる。

ばたばたするとどうしてもミスしてしまいやすいので、できるだけ余裕を持って行動するようにしたい。

記：網干

## コースタイム

三本松(11:20) … 赤沼(11:35) … 展望台(12:30-13:00) … 赤沼(15:05) … 三本松(15:15)



朝、家を出ると、オレンジ色の星が見える。木星だろうか？天気予報では夕方から雨になっているが、今のところ、ますますの天気になっている。

上野で一つ前の電車に乗る。小山から水戸線に乗り換える。次第に筑波山が大きく見えるようになる。野焼きでもしているのだろうか？煙が筑波山を隠すときもあった。

岩瀬駅で、全員集合する。今日は、茨城県の方が多い。初参加の方もいるので、自己紹介をして出発する。出発するとすぐに、立派なひな壇を飾ってある家の方からハイキングマップをいただく。この付近の登山地図がないので、ありがたい。水戸線の線路を渡り、舗装道路を行く。振り返ると、遠くに高峯や雨巻山が見える。



滑りやすい登山道を登る

舗装道路から山道に入っていく。少し行くと不動滝となる。滝ということだが、自然の滝ではなく、木で作った樋から流れ落ちる滝のようだ。滝上に不動明王が設置されているので、不動滝と名前を付けたのだろう。

さらに登っていくと御嶽神社に着く。ここは御嶽山の山頂でもある。展望の良い東屋で休憩する。かすんでいたが、何とか日光の男体山や女峰山が見えた。土浦のMさんがサツマイモをふかして持ってきて、みんなに振る舞ってくださる。安かったということだが、とてもおいしかった。

さらに稜線を歩き、登山道が右に折れるところ来ると、電波塔のあるピークと雨引山がよく

見える。ここでは、Tさんからリンゴ、SAさんからオレンジの振る舞いがある。今日は頂き物だけで腹がふくれてしまった。

最後の登りをがんばっていると、登山道にウソが現れてくれた。ほっぺの赤い雄のウソだ。「これが真っ赤なウソです」といつもながらのくだらない冗談を言う。



雄のウソ

そこを過ぎると、すぐに雨引山に到着する。ここからは、近々の加波山が立派に見える。関東平野もうっすらと見えていた。ここで昼食タイムとする。初参加のSさんからも干し芋が振る舞われる。お昼を食べ始めると、ポツポツと雨が降り始めた。弱い雨だが、雨具を付けることにする。



雨引山山頂にて

加波山への縦走路の分岐を過ぎ、さらに下っていく。イノシシが掘り返した穴が、そこら中にある。登山道も掘り返されている。イノシシの必死さが伝わってくるようだ。

雨引観音に到着し、みなさんはお参りしている。多宝塔は立派だ。と、誰かがクジャクがいるという。そうだ、ここはクジャクを放し飼い

にしているのだ。屋根の上に止まって、人を見下ろしている。写真撮影に忙しくなる。羽を広げないかな、飛んでくれないかなと、みんなが期待していたが、そこから動いてはくれなかった。



クジャクが鳴いていた

それでも、石段を下りて駐車場に行くと、そこにいたクジャクが羽を広げてくれた。クジャクは檻に入ったものも合わせると、7～8羽いるようだ。

神社からはずっと車道歩きになる。大きな道をしばらく行くと、今登ってきた雨引山がよく見えるところに出る。さらに行くと、その梅

## ★烏場山(2月11日)

参加者 会員(健常者5名)

今回も直前でキャンセルがあり、人数は5人に減ってしまった。少人数であれば、それはそれで楽しいものがある。

外房線経由で和田浦駅に着く。今日は好天になるが風が強い予報。しかし、歩きはじめるとすぐに暑いくらいになる。日差しは暖かい。元朝桜という桜が咲いている。この桜は、元旦の朝に咲くので、この名前があるらしい。多くのメジロが蜜を求めて飛び交っている。

舗装道路を歩いて登山口に付く。ツアー客が大勢いた。今回のコースには「花嫁街道」という名が付いている。山間集落と海辺の集落をつなぐこの道は、古くから生活物資の往来や通学

はもう満開だった。河津桜も咲き始めていた。途中からつくばりりんりんロードを歩く。ここは昔、筑波鉄道が走っていたところ。まっすぐの道が心地よい。後ろには筑波山も見えている。

長い道を歩き、岩瀬駅に到着する。ここで、車できた茨城の方々とお別れし、電車組は小山経由で帰ることとする。 記：網干



りんりんロードから見た筑波山

## コースタイム

岩瀬駅(9:45)…登山道入口(10:00-10:05)  
…御嶽山(10:20-10:40)…雨引山(11:45-12:20)  
…雨引観音(12:45-13:10)…岩瀬駅(15:05)

路として利用されていて、花嫁行列もここを通ったことから、花嫁街道と呼ばれるようになったらしい。



元朝桜に止まったメジロ

山道をぐんぐん登っていく。第一展望台で休憩するが、ここは全く展望がない。さらに登っていくと第二展望台になる。ここは、太平洋が見える。和田浦は鯨が捕れる場所とのこと。空



に浮かぶ多くの雲を見ていると、みなみらんぼうの「空飛ぶ鯨の歌」を思い出す。



尾根の左側は、マテバシイの林となる。細い幹がたくさん伸びている。さらに行くと経文石がある。かつては石の下を道が通っていて、この石にかすかにぼん字が読み取れたらしいが、今は見えないし、落石の危険があって道を上に下らしい。



次はじがい水、ここで自害したのかと思ったが、「自我井水」と書き、山中の隠し田の水利だそうだ。



標高は低いが、アップダウンが続く。意外に体力を必要とする山だ。駒返しを過ぎ、さらに行くと、大勢の人たちが昼食中だった。100人以上はいたはず。こんなに大勢の人に会うとは思っていなかった。ここは、見晴台(カヤ場)。日当たりが良く気持ちよい場所だ。ただ、私たちは喧噪を避けて第三展望台に向かうことにする。

第三展望台には誰もいない。私たちだけの昼食タイムとなる。雲がかかっていたが、富士山も見えた。その手前には房総のマッターホルン伊予ヶ岳も見える。右の方には、房総半島の最高峰、愛宕山もよく見える。

昼食後は、鳥場山山頂に行く。山頂は狭いが人が多い。ゆっくりできそうにないので、写真だけ撮って下山にかかる。山頂には、花嫁の形をした石の像(おふく)が置かれてあった。

下山コースは、花婿コースと名付けられている。尾根通しのコースだ。旧鳥場展望台で休憩し、見晴台を通過して黒滝へと下りていく。黒い岩の上を水流が流れ落ちている。



黒滝を過ぎるともう広い道となり、はなその広場に到着する。紅白の梅が美しい。

最後は、砂浜に出て太平洋の荒波を見る。荒々しい波が押し寄せている。海も良いものだ。さらに道の駅に立ち寄り。鯨の缶詰を一つ、お土産に買って帰ることにする。

2時間以上かかる長い電車の旅を楽しみながら家路についた。 記：網干

## コースタイム

和田浦駅(9:55)…花嫁街道入口(10:30)…第一展望台(10:55-11:00)…第二展望台(11:15)…第三展望台(12:25-12:55)…烏場

## ★金時山(2月26日)

参加者 会員(障害者1名、健常者7名)

今年度最後となる「障害者と健常者が共に楽しむ登山」は、有名な金時山だ。今日は晴れのち曇り。高速バスの中から真っ白な富士山が望まれる。乙女峠に着くと、帯状の雲が富士山の中腹を隠しているが、山頂がきれいに見えていた。しかし、きれいに見えたのは、今日はこれが最後となる。峠のバス停にある茶屋の前には、金太郎と熊が相撲を取っている銅像が建っている。金太郎の尻をなでると良い子に育つそう。尻だけがぴかぴかに光っている。もう良い子になるのは無理なことは分かっているが、みんながなでて出発する。



乙女峠から見た富士山頂

杉や檜の林を登って、乙女峠を目指す。植林帯は薄暗く、野鳥たちの声もしない。ひたすら登っていくと、次第に空が見えるようになる。峠に着く頃には、すでに富士山は雲の中になっていた。展望台には寄らず、少し上にあるベンチで休憩する。神山や仙石原がよく見える。大涌谷は、水蒸気をもうもうと上げていた。

乙女峠からは木の階段が多くなる。まだ、雪

山(13:00)…旧烏場展望台(13:30-13:35)…はなその広場(14:35-14:50)…和田浦駅(15:45)

は全くない。長尾山の下りは、急傾斜の場所や岩場があり気がぬけない。雪も少しだが付いている。IさんがAさんのサポートをしてくださるので安心だ。長尾山の次のピークを過ぎると金時山山頂への最後の急坂となる。



残雪のある岩場を下る

山頂に着くと、大勢の人がいる。Iさんが、金時茶屋のなめこ汁をごちそうして下さるといふ。どんぶりに入ったなめこたっぷりの汁を飲み、みんな大満足。Iさん、いつもありがとうございます。



金時山山頂にて

山頂には、写真撮影用に斧がおいてある。斧を持った金太郎役と熊役をして楽しむ。上空はすっかり雲に覆われていて日差しはなくなっている。富士山は雲に隠れてしまっている。それでも神山や芦ノ湖、愛鷹山などがよく見える。



なめこ汁に体が温まり、山頂を後にする。

下りも日陰のため、雪がまだ残っている。傾斜もかなり強いので、慎重に下る。ジュラルミン製の仮設のはしごが7台くらいあったのだろうか。スリッパに気をつけて下る。



なめこ汁最高！1さんありがとう！

傾斜が落ち、道が広くなると猪鼻砦跡に着く。ここは、昭文社の地図では、丸鉢山ではないだろうか？ 雲がかかっていたが、スッキリ晴れたら富士山がきれいに見えるところだ。

広くなった林道をぐんぐん下って行き、足柄峠に到着する。ここからは舗装道路になる。しばらく下っていくと、足柄古道の入口があったので、古道を下ることにする。やはり車道より、足に優しい。

車道への出口にある標識を見ると、赤坂古道となっている。どちらが正しいか分からないが、

赤坂古道の標識の横には、馬頭観音があった。

ここからは舗装道路をぐんぐん下っていく。さすがに足がいたくなってきた頃、足柄駅が見えてきた。車に乗っていた人にコンビニはどこか聞いたら、駅に行く近道があることを教えていただいた。その道は、線路のすぐ下を這うように通過する道だった。流れる水で靴を洗い、足柄駅に到着する。

今回のコースは、グレードBとしたが、山頂付近の急登や最後の長い車道歩きを考慮するとCに近かったように感じた。 記：網干



赤坂古道の標識と馬頭観音

### コースタイム

乙女峠バス停 (9:55) … 乙女峠 (10:35-10:45) … 金時山 (11:55-12:40) … 猪鼻砦跡 (13:35-13:45) … 足柄峠 (14:30-14:40) … 足柄駅 (15:50)

## ハイキング報告

### ★第47回ふれあいハイキング（北印旛沼）（2月19日）

参加者 会員(障害者1名、健常者9名)  
会員外(健常者1名)

今日はすばらしい好天に恵まれた。しかし、風が強い。下総松崎（しもうさまんざき）駅に着くころ、電車の中から真っ白な富士山が見えていた。

京成成田駅からJR成田駅の乗り換え時間が短いため急いでいて、Kさんと成田駅で合流することをすっかり忘れてしまい、京成成田駅で待っていたKさんが一電車遅れてしまった。申し訳ないことをしてしまった。

約30分遅れで下総松崎駅を出発する。風が強く、すぐに帽子が飛ばされてしまった。

北印旛沼の土手のところに着くが、土手に上がる道がない。北側に橋のようなものがありそうなので歩いてみたが、そこに行くには建物の

敷地内に入る必要があるが、敷地の門には蛇腹の扉が閉まっていた。このコースは、北印旛沼を見られないまま休耕田と用水路の横を歩くことになる。



今回は、まだ花が咲いていないので、バードウォッチングが一番の楽しみとなる。まずはモズやホオジロが現れる。用水路ではカワセミが数羽見られた。印旛沼の土手に上がれないまま、舗装道路を歩き、スカイアクセス線の下を通過して、さらに北印旛沼に沿って歩く。筑波山も見えるものの、小学生のH君は後ろでつまらない様子。休憩してお菓子をみんなが上げているが、食べようとしなない。ただ歩くだけでは子どもにはつまらないな～。



さらに歩いて、再度スカイアクセス線の下を通過すると、まもなく甚兵衛渡しの公園に到着する。紅白のウメが咲き、見晴らしもなかなか良いところだ。ここで昼食タイムとする。H君と並んでお昼を食べる。「おいしそうだね」と言ったら、まだ箱しか見ていないんだけど」という。「しっかりと箱に入れてきているんだか

ら、それを見ただけでおいしいと分かるよ」と会話をする。



昼食後、みんなが休んでいるときに、土手にかかる道がありそうなので確認に行く。土手にかかる道があった。土手に上がると北印旛沼が見えて景色も良くなる。集合写真を撮った後、土手に向かう。



土手の上は、草を刈ってあるだけで、あまり道とは言えないコースが続く。きらきら光る北印旛沼、振り返るとスカイアクセス線がよく見える。小高い丘の上には鷹の仲間のチュウヒが飛んでいる。チュウヒを見分けるコツは、翼が浅いV字になっているかどうか。他にはトビも見られた。アオサギにダイサギも見られた。

土手の上を歩くようになって、H君は元気になった様子。カマキリの卵も見つけたらしい。私に家に持ち帰って、孵化させると言うが、100匹近く出てくるはずだから、とんでもないよ。H君は、枯れ草を私に投げたりして遊んでいる。子どもには遊ばれ役が必要なんですね。

平賀干拓を過ぎ、途中から用水路から別れ、



まっすぐ酒々井駅を目指す。木の枝に止まっていたのはカシラダカだった。シジウカラもいた。

酒々井駅は、「さけさけい」駅ではありません。「しすい」と読みます。

今日歩いた歩数は、25,000歩程度だったようです。歩数が少なく表示されている人は

足が長いから？ 舗装道路は足首を痛めやすいらしい。長い距離をお疲れ様でした。

記：網干

### コースタイム

下総松崎駅(10:55)…スカイアクセス線下(11:50)…甚兵衛の渡し(12:40-13:20)酒々井駅(15:45)

## その他事業報告

### ○臨時総会開催

来年度の事業計画を決める臨時総会を1月9日(土)10時30分から八千代台公民館で

開催しました。議案は異議なく承認されました。詳細は、議事録をご参照ください。

### ◎第9回活動紹介映写会開催

第9回活動紹介映写会を八千代市総合生涯学習プラザで、2月25日(土)14時から開催しました。当日は、会員13名、会員外17名の合計30名の参加があり、過去最高の参加人数となりました。会員外の方は、「親子で目指そう富士登山」に参加した親子やその家族の方が多く、他に会員外で登山に参加した方や知人の方が多い状況でしたが、広報やちよなどを見て参加された方も5名となりました。当日、広報やちよなどを見て参加していただいた方にアンケートをお願いしました。その集計内容は下記の通りです。

1. 映写会の案内がある以前にNPO法人山仲間アルプをご存じでしたか？

- a. 良く知っていた 0
- b. 名前だけは知っていた 1
- c. 全く知らなかった 3

2. お住まいはどちらですか？

- a. 八千代市内 4

3. 今回の映写会があることを何で知りましたか？

- a. 広報やちよ 3
- b. 八千代市総合生涯学習プラザ内のチラシ 1

4. 本日の映写会に参加されて、「自然と親しむ子ども山登り教室」や山仲間アルプの活動内容をご理解いただけましたでしょうか？

- a. 良く分かった 2
- b. 何となく分かった 1
- c. 未記入 1



多目的ホールでビデオを見る

## 各種連絡事項

### ▲定期総会開催予定

第14回定期総会を下記の通り予定しています。詳細が決まりましたら、議案書と共にお知らせしますので、万障繰り合わせの上、ぜひご参加願います。

日時：平成29年5月28日（日）

14:00～15:00

場所：八千代台公民館 和室

## 会員情報

### ◎新入会員のお知らせ

12月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願います。（敬称略）

正会員

1名

## 編集後記

### ・理事長のつづやき

「活動紹介映写会」でこれまでに行ってきた活動を簡単に紹介させていただきました。引きこもりの人たちやその親御さんと関わったり、親と一緒に暮らすことができず、児童養護施設「子山ホーム」で暮らす子どもたちと関わったり、重度の知的障害者の人たちが通う八千代市の「友愛みどり園」を訪ねたりしてきました。いろいろな人と関わることは、そこで多くのこと

を学ぶことが出来ることで、心を豊かにしてくれます。人生とは何か、幸せとは何か、障害とは何か等々、答えなどないから、どこまでも深く考えることができます。山仲間アルプの最終目的は、「心豊かな社会づくりに寄与すること」にあります。これからも、みんなで心の豊かさにつながることを考えていきたいですね。

### ・次回発行予定は、6月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで

〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208

NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝

TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

